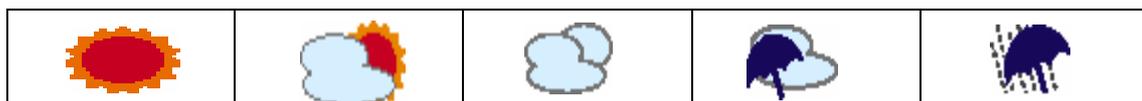


1. 平成21年4月～6月期の景気動向

D I 値の平均は、過去最悪だった前回（ 68 ポイント）から 51 ポイントに縮小し、景気は底を打ったと思われるが、売上減少と同時に資金繰りを中心に依然厳しい状況が続いている。

業種 項目		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		73 (69)	67 (75)	66 (76)	61 (70)	69 (83)	70 (73)	70 (69)	70 (69)	74 (54)	54 (67)
採算		67 (75)	53 (81)	71 (68)	56 (63)	52 (67)	42 (67)	67 (63)	65 (63)	63 (67)	56 (65)
資金繰り		43 (44)	57 (63)	60 (53)	57 (52)	62 (8)	59 (25)	31 (48)	35 (55)	46 (55)	38 (41)
業況		43 (69)	57 (81)	70 (70)	64 (67)	13 (67)	67 (80)	67 (72)	65 (73)	56 (63)	46 (54)
経営上の 当面する 問題点	1位	民間需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		購買力の他地域への流出		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		製品ニーズの変化への対応		代金回収の悪化		消費者ニーズの変化への対応		店舗施設の狭隘・老朽化	
業種別 コメント		民間、官公需要の停滞から、本来受注が見込める時期にもかかわらず前期に比べ売上は減少している。業況が改善傾向にあるが不変と回答した割合が増えたのみで、好転している企業は該当がなかった。需要が一気に増加する兆しは見られず、別分野への進出やニーズに対応した新しい経営の構築が求められる。		前期とほぼ同じに推移しており、依然厳しい状況が続いている。製造業を取り巻く全業種の課題である受注減により、多くの企業が雇用調整助成金を導入して経営努力を行っている。新たな経営上の問題で取引条件の悪化があげられている。今期も設備投資を実施した企業はほとんど見られない。		前期までD I 値の落ち幅が比較的穏やかだった資金繰りに関しても今期は大幅な落ち幅となった。業況に改善傾向はまったく見られず、当面の資金をセーフティネット資金等をつないでいた状態がいよいよ厳しくなってきたものと思われる。他業種の傾向から見ても、業況回復はまだ先と思われる。		売上高並びに採算でのD I 値は悪化しており、不況による減少や単価の低下と厳しい状況が続いている。また、来期見通しでも企業の雇用調整による不安から個人消費拡大の低迷はしばらく続くとの見方が強く、中元商戦を前にして改善の兆しが見えない。		D I 値の底止まり感はあるものの、不況による利用回数の減少や単価の低下とともに燃料価格が上昇傾向にあることから、全項目とも前期と同じD I 値となった。来期も通しでも改善は見られず厳しい状況が続くと予想され、何より需要の停滞が大きな課題となっている。	

(68 ポイント) から 51 ポイントと縮小され、数値上は底を打ったかに見えるが、一部の業種で若干改善されているが、他の業種は資金繰り!



とくに好調
(50 DI)

好調
(25 DI<50)

まあまあ
(0 DI<25)

不振
(25 DI<0)

きわめて不振
(DI< 25)

当所では分析にあたってD・I (好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。

() は前回調査時のD・I値